

平成29年度
先駆的家庭教育支援推進事業

「みえ家庭教育応援プラン」に基づいた
県内における取組について
～訪問型家庭教育応援に向けて～



三重県健康福祉部
子ども・家庭局少子化対策課

1 三重県の概要



○美しい自然、歴史資産、豊かな食材、多彩な文化伝統や技術、ものづくりにおける高い産業集積

* 29市町、人口1,799,287人(H29/12/1)

鈴鹿サーキット

伊勢神宮

伊賀忍者

熊野古道

松阪牛

伊勢志摩
サミット

伊勢エビ 鮑

H33 三重
とこわか国体

幸福実感の向上

2 事業の概要

市町と連携したネットワークづくり

家庭教育応援の気運づくり

三重県
の
取組の
特徴

健康福祉部を主担当とした家庭教育応援
(保健・福祉・教育との連携)

予防的な視点をもった早期からのアプローチ

3 取組の背景

○働く保護者やひとり親家庭が増加し、近所付き合いが減っている

○スマホやゲーム等の利用率も高く、子どもの生活習慣に課題が見られる

○県及び市町での家庭教育の主担当部局や担当者が明確でない

○県及び市町において、各部局で家庭教育応援の施策を講じているが連携が少ない

○市町や部局によって家庭教育の認識や捉え方に温度差がある

○地域の実態に応じた組織や取組が存在する

4 「みえ家庭教育応援プラン」に基づく取組

家庭教育に関する現状を見据えた 県全体の取組の推進

「みえ家庭教育応援プラン」(H28年度策定)

孤立感や
ストレスの軽減

子どもの
生活習慣の定着

家庭教育の
啓発・気運醸成

ネットワークづくり
や人材育成

県と市町
部局間の連携

家庭教育応援プロジェクト

3つのテーマ

- ・みんなで進めよう！子どもの基本的な生活習慣づくり
- ・つくろう！家庭教育を応援する地域のネットワーク
- ・応援しよう！企業と連携した家庭の教育力アップ

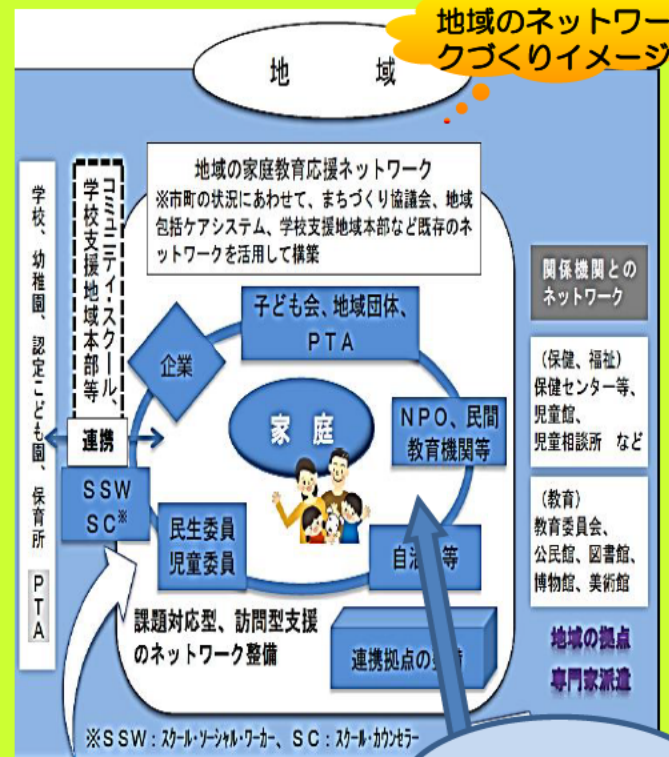
取組の視点

切れ目のない
保健・福祉・教育との連携

既存のネットワーク及び
地域資源等の活用

一律でない地域・家庭の
実情に応じた取組の展開

早期からの予防的な取組



専門人材の支援

地域の家庭教育
応援(人材育成)

5 当事業の主な取組

【ネットワークづくり】

○モデル事業の実施(再委託先 玉城町、名張市)

○市町担当者連携会議の実施(3回)

○庁内連携会議の実施(7回)

(健康福祉部、教育委員会、戦略企画部)

市町やPTA、
企業など多様な
主体と連携して
取組を推進

【気運づくり】

○保護者の交流につなげる学習コンテンツ

「みえの親スマイルワーク」の作成

○「みえ家庭教育応援フォーラム」の開催

○「みえ家庭教育応援リーフレット」の作成

市町担当者連携会議での情報共有

市町担当者家庭教育応援 推進連携会議

○第1回 5月実施

みえ家庭教育応援プランに基づき取組の概要、大阪府大東市取組紹介、ワークショップ

○第2回 11月実施

モデル事業中間報告、NPOとの連携事例発表(桑名市)、ワークショップ

○第3回 2月実施

モデル事業年間報告、子ども食堂との連携事例報告(鈴鹿市)、ワークショップ

連携推進の取組

- 会議・フォーラム参加
24/29市町(82.7%)
- 会議参加者・・・のべ123人

訪問支援につなげるため何を切り口にしていくのか、少しでも幅広く啓発していくとともに、ピンポイントにもとどけるためにはどうするのか。会議において、各部局連携されることと、ネットワークづくりの大切さを感じた。

民間の組織、ノウハウが各事業に取り込まれていくと、実践的な活動が広がるのではないかと思います。

今ある事業を家庭教育としてまとめるものではなく、家庭教育の課題に重点をおいた施策を考えることが大切であると感じた。

保護者同士で交流する機会の提供

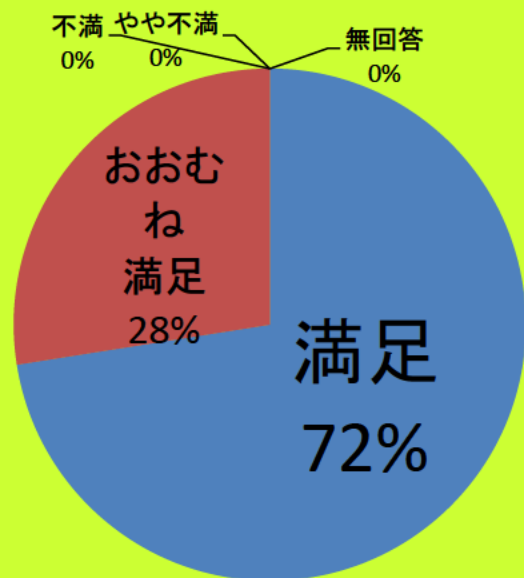
学習プログラムを活用した取組

みえの親スマイルワーク(子育てはっぴいパパ・ママワーク)等の実施市町

* 市町独自の取組含む

.....19市町

参加した保護者の満足度(40名)



この様な集いがあることを初めて知りました。参加するまでは不安な面もありましたが、参加してみて、いろいろなことに興味、悩みがあるんだなと来てみて良かったです。

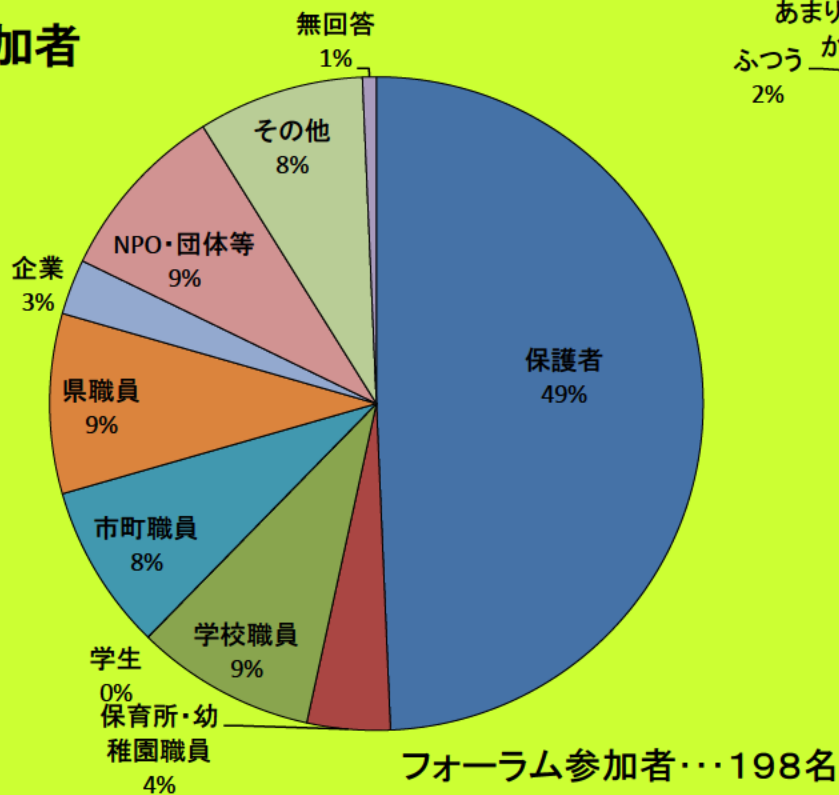
初めてお会いした方とおしゃべりできてよかった。みんな同じだな一つ一つ思ってた安心した。

ストレス発散になりました！！いろいろな方の話が聞けて、参考になりました。

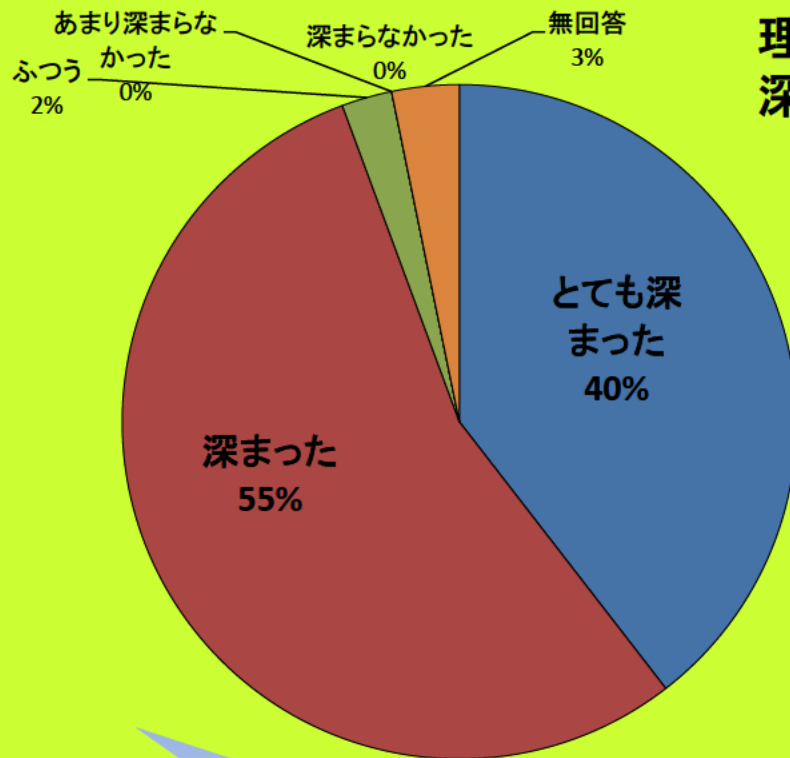
スタッフから個々への声掛けにより参加率も多くなる。参加した保護者の満足度は高いが、「働いている」「子どもを預けられない」「知らなかった」などへの対応も検討していく必要がある。

フォーラムやリーフレットにより 家庭教育や生活習慣の大切さを啓発

参加者



理解の深まり

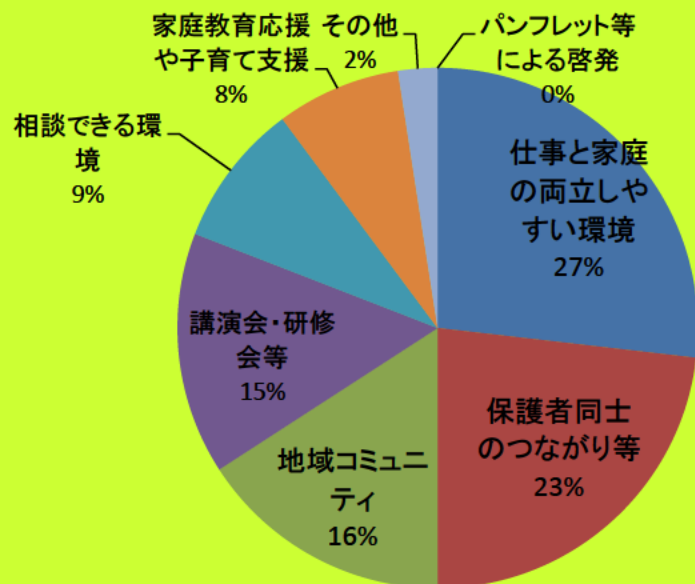


【家庭教育応援フォーラム】

- 講演「今からでも遅くない！生活リズムと子どもの育ち」成田 奈緒子氏(文教大学教育学部教授)
- パネルディスカッション(企業・地域団体・PTA)

多様な団体からの参加があり、9割以上が理解が深まったと回答があり、改めて学びの場の必要性を実感した。

家庭教育応援充実のために必要だと思うこと



「家庭教育応援に必要なこと」として
仕事と家庭の両立しやすい環境
保護者同士のつながり
地域コミュニティ
の順で多く回答された。

【参加者の感想】

- 子どもの生活リズムがみだれているのですが、なぜダメなのかの説明を子どもにするのにすごく役立ちます。
- 親の生活スタイルを少し見直して、リズムをつくり、子ども達の生活リズムもきちんと見直していこうと思いました。

・・・「企業と連携した取組」と
「地域で保護者が集う場づくり」が今後のポイントであろう。

6 玉城町の取組

(1)玉城町の概要

人口:15,674人 世帯数:5,698世帯(H29/4/1)

保育施設:4保育所 小中学校:4小学校・1中学校

(2)家庭教育応援に関わる現状

- ・共働きの家庭の増加と共に放課後児童クラブの利用(特に1~2年生)が増加している
- ・部局間や関係者で、定期的に家庭の課題を共有したり解決策を模索したりする機会が以前より増えてきている。
- ・マイ保健師制度(地域を担当する保健師)を導入し、出産前から家庭の様子等を把握している
- ・民生委員・児童委員が地域で様々な取組に関わり、任期後もボランティアとして関わる方が多い。
- ・転入家庭、ひとり親家庭など関わりが少なくなりがちな家庭へのアプローチが難しい。

(3) 取組方策

既存のネットワークや
取組の活用

保健・福祉・教育の
協働と体制づくり

保護者との関係づくり

子育て家族向けの
学びや交流の場づくり

地域の人材育成と
人材の確保

早い段階からのアプローチと顔の見える関係づくり
→ 訪問による支援につなげていく

(4) 取組計画

- ・町社協と連携し、民生委員・児童委員の協力を得て取り組む。
- ・子育て及び親支援に関する研修により、スキルを高める。
- ・保育所、児童館での学びの場(出前講座)を実施し、親と顔の見える関係づくりを進める。
- ・民生委員等がマイ保健師と共にブックスタート券未交換家庭への訪問に同行したり、ニーズに応じた訪問支援行ったりと少しずつアプローチを進めていく。

社協・民生委員への
アプローチ(理解協力)

実態に応じた研修検討
と研修会実施

(8~10月)

親との顔の見える関係づくり

- ・出前講座を通じた保育所や児童館での関係づくり
(1,2才児の子を持つ保護者を中心に)
- ・ブックスタート券未交換家庭訪問での関係づくり
- ・転入家庭への情報提供を通じた関わり

○保育所長や児童館長へのヒアリング

○ニーズに応じた講座実施
→保育所3
→児童館1 (10~2月)

訪問活動

* 教育委員会との連携

- ・当該事業の検討及び情報共有
- ・児童館に来館した保護者(就学児を持つ)との関係づくり
- ・支援の必要な家庭の情報共有
- ・就学時での学校との連携

(5) 取組の概要

①「ぶっくすたーとおせっかい事業」

→昨年度20%の家庭が未交換

- 未交換家庭対象の訪問(2件)

②「転入者訪問」

→町内保育所に入所していないお子さんがいる転入家庭対象の訪問

- 3カ月のお子さんがいる家庭(2件)
- フルタイム勤務の家庭(1件)

訪問支援の活動

③訪問支援に関する人材育成

- 民生委員、児童委員対象に講座実施予定→災害救助法適応となる台風被害の対応のため未実施

④親の学びと関係づくり ～乳幼児期の早い段階からの取組

- S保育所 1・2歳児 親子の集い
(参加者:10人)
- T保育所 1歳児 親子の集い
(参加者:20人)
- 保健福祉会館(参加者:39家庭)



(6) 取組を通じた関係者や保護者の声

訪問を通じた保護者の様子

【ブックスタート1】電話での連絡後、保護者自ら交換に来所し窓口で対応した。

【ブックスタート2】見守りの必要な家庭と判断し、保健師と保育士で対応した。

【転入家庭1】3カ月のお子さんがある家庭で、保健師と保育士・元養護教諭で対応し情報提供を行った。

【転入家庭2】フルタイム勤務の家庭であったため、電話での情報提供や相談を行った。また、妊娠中にため健診時に会い出産後も再度会うこととなった。

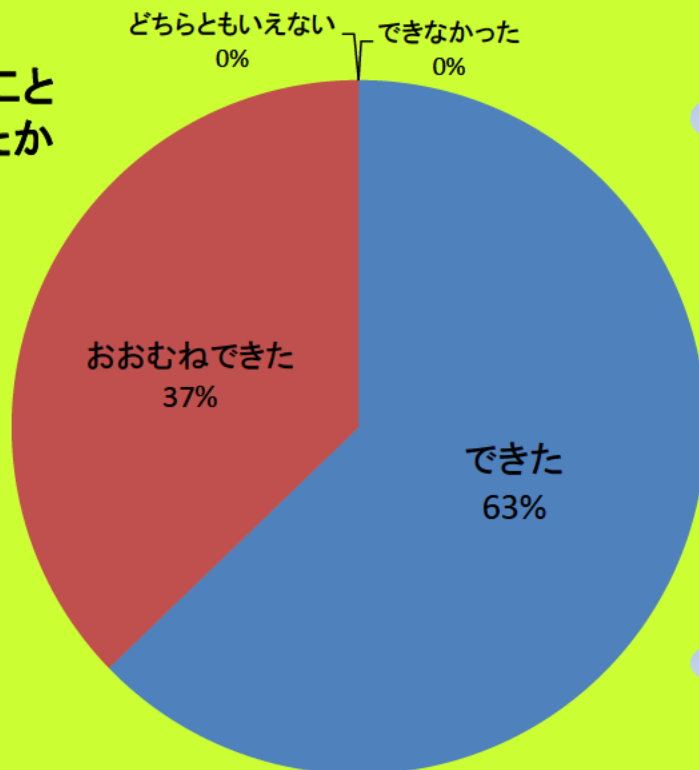
【転入家庭3】電話連絡後に来所し、町の制度や窓口、親の学びの場などの情報提供を行った。また学びの場を紹介したところ、参加の意向を示した。

「転入時は不安が大きいね…」 「ブックスタート券の交換に行けない事情があるのかな…」 「一緒に子育てについて学ぼうよ」という思いのもと、実際に会い、保護者の安心した表情を見ると「顔の見える関係づくり」の大切さを実感しました。今後、様々なアプローチができる関係をつくれれば良いなと思います。



講座を受講した乳幼児の子をもつ保護者43名のアンケート結果より

子育ての
ヒントを得ること
が出来ましたか



他の子どもたちの様子を知る事で、自分の子だけが特別なんじゃない。みんな同じ様に悩んだりしている事がわかった。

考え方を考えるだけで子育てもせっぱ詰らずできるような気がします。

子どもだけでなく、自分自身も変えたり一緒に成長していけたらいいと思う。

【スタッフの感想】

保育所を活用した初めての試みでした。アイスブレイクを取り入れた講座もあり、保護者同士が語り合うグループワークでは思った以上に積極的に話していた。地域担当の保健師も関わったので保護者との関係も良かった。この取組を今後の顔の見える関係づくりにもつなげたい。

(7) 成果と課題

【成果】

○関係が結びにくい転入者とも顔の見える関係づくりができた。

○転入で不安を抱える保護者に、子育て中の保護者が集う場等へ導くことができた。

○早い段階から保護者への子育てや家庭教育に関わる学びの意識づけができた。

【課題】

- ・関係団体との調整に時間を要した。
- ・予期せぬ災害で計画的に進められなかった。
- ・支援を必要とする家庭に情報が届いたのか。

(8) 今後の方向性

年間を通じた訪問や学びの機会を重ね、
保護者との関係を築く

訪問支援につながる研修を実施し、民生
委員などとの連携をすすめる

保健、福祉、教育での情報の共有を密にし、
切れ目のない取組をすすめる

子どもが小さいうちから
保護者との顔の見える
関係づくりのさらなる推進

7 名張市の取組

(1)名張市の概要

人口：79,263人 世帯数：33,722世帯(H30/1/1)

保育施設25【1530人】幼稚園(公私6)【941人】

小学校 14【4065人】 中学校 5【2031人】(H29/4/1)

(2)家庭教育応援に関わる現状

○名張版ネウボラ事業 * 市内15か所34人のチャイルドパートナー配置、地域の広場の設定等

○「地域づくり」における地域住民の活動が活発

○家庭教育講座への市民スタッフの関わりがある

- ・多様な家庭環境で育つ子や市外からの転入が増えている。
- ・各地域での家庭教育に関する意識に温度差がある。
- ・講座を受講した市民の活躍の場が求められている。
- ・託児のニーズが多いがスタッフが不足している。

(3) 取組方策

教育委員会
文化生涯学習室

部局間連携及び
地域の関係者や
機関との連携

名張市教育センター

子ども支援センター
かがやき

既存の
ネットワークの活用

家庭教育スタッフ

子育て支援員
子育てボランティア

人材育成としての
学びと実践の場

保護者が集う場
の設定

地域のひろば
発達支援センター等
関係施設

保育所・幼稚園
小中学校

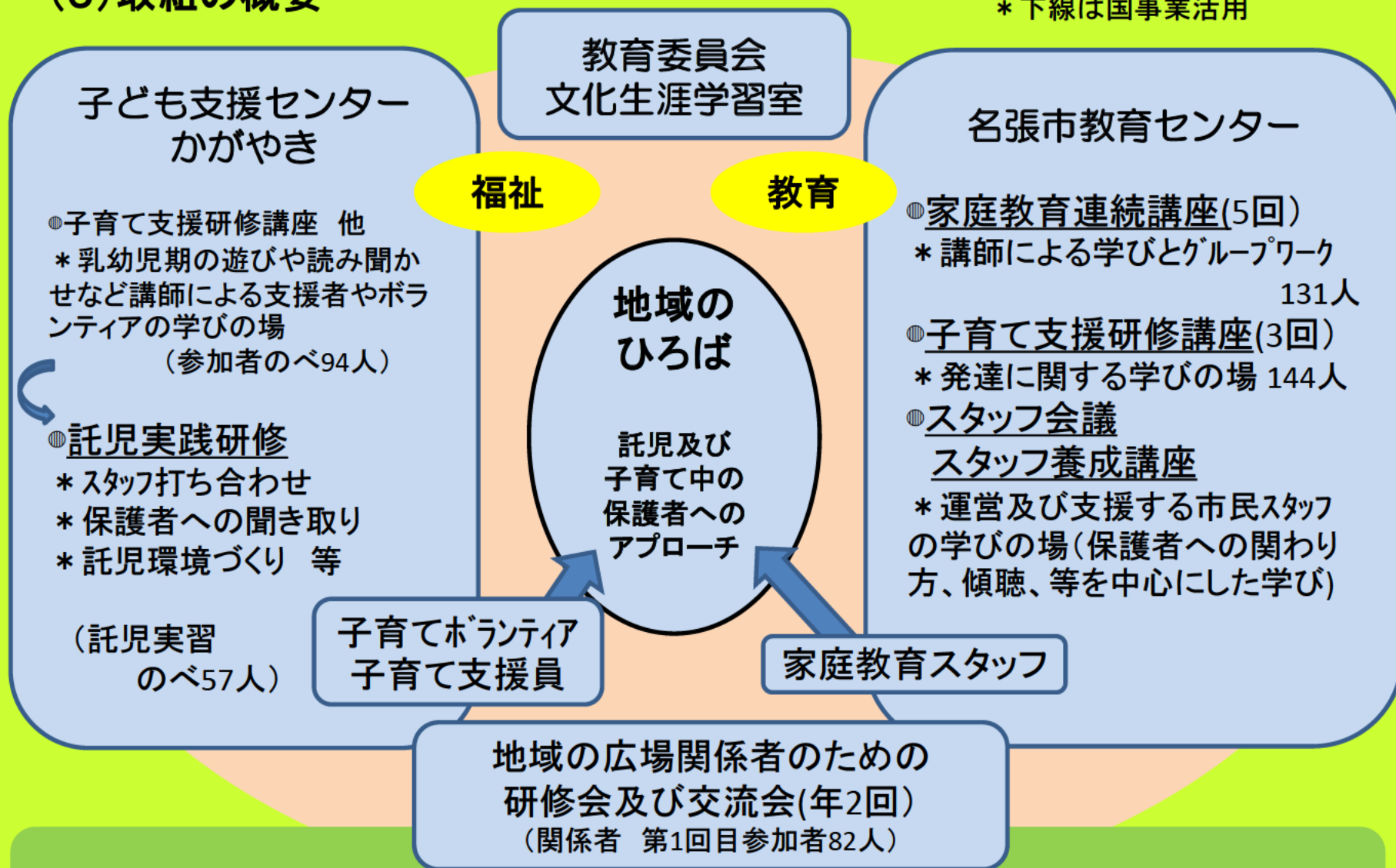
(4) 取組計画

	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
モデル 地域との 連携	候補 検討 ↓ 要請 協議	具体的 取組の 検討 * 地域への啓発案内活動				実践的活動 ・居場所づくり ・ワークショップ ・学びの場 等 * 相談や訪問		他地域へ 見学等 呼びかけ
支援者・ 進行役等 人材育成		スタッフ養成 講座	支援者(家庭教育スタッフ・子育て支援員等)の 養成研修(ワークショップ実践研修含む)		スタッフ養成 講座			
託児等 ボランティア 養成			託児ボランティア等養成研修 託児実践研修等					
保健福祉 教育の ネットワーク 構築	担当者での打ち合わせ		* 必要に応じて実施	第1回地域子育て支援ネットワーク会議*	文化生涯学習室・教育センター・子ども支援センター・健康子育て支援室・保育幼稚園室・こども発達支援センター・地域・民生委員・主任児童委員・支援者 他			第2回地域子育て支援ネットワーク会議*

* 既存の「地域の広場関係者のための研修会及び交流会」の活用

(5) 取組の概要

* 下線は国事業活用



地域の広場関係者、主任児童委員、保育所(園)・幼稚園、子ども園、チャイルドパートナー、子育てサークル連絡協議会、子育て支援員、社会福祉協議会、健康子育て支援室、保育幼稚園室、子ども発達支援センター

(6) 訪問支援に関する工夫

教育センターが所管する適応指導教育の専門スタッフでも家庭への訪問は拒否されることが多い。また、働いている保護者も多い。

研修を積んだ家庭教育スタッフが、保護者が気軽に集まる地域のひろば(子育てサロン)を訪問し、顔の見える関係づくりを開始

【段階的に実施】

研修や講座において保護者との関わり方やコミュニケーションスキルを高める

地域のひろば(子育てサロン)を訪問し、保護者との関係づくりを重ねる

保護者との関係を築き、個のニーズに応じた訪問支援を行う

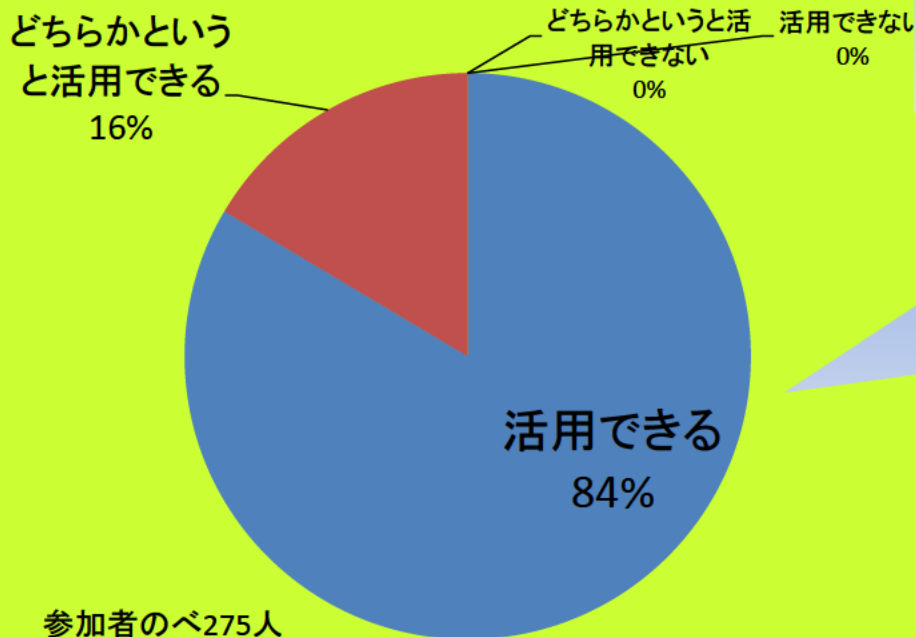
地域の子育てサロンを訪問をした家庭教育スタッフの感想

(自宅訪問も視野に入れ)初めて皆さんの中に入り、お母さんや子どもたちに声をかけたどの方も笑顔でお話くださいます。しかし、思いを聞き取るにはお互いの関係づくりが必要だと感じました。何度か顔を合わす中で、ホンネが出てくるのでは…と思いました。



(7) 講座を通じた関係者や保護者の声

Q: 学んだことを今後の実践に活用できますか。



自分のこと、子育てのこと、人間関係のこと、いろいろなことに悩んでいて、それを今回出せる場所、環境づくりができつつある講座になってとても良かったです。

子どもに当たってしまい、怒ったことや手をあげたことは心に傷として残っている。その一つ一つを母として謝ったり、振り返り、子どもと向き合っていくことが大切だと気づかせてもらいました。

家庭教育スタッフ講座の内容

- ・ファシリテーションスキル
- ・保護者の気持ちのほぐし方
- ・訪問時の保護者への接し方
- ・「傾聴」～コミュニケーションの基本～
- ・リフレーミングの実習 等

【スタッフの声】

保護者は日常抱えている子育ての悩みを涙ながらに話す参加者もいます。その思いに耳を傾け、前向きに子どもと関わっていけるよう保護者に寄り添っていく経験を重ねていきたいと思います。

(8) 成果と課題

成果

- ・既存の組織や事業を整理したり連動させたりしながら、顔を合わせ検討する回数が増えるとともに体制が整ってきた
- ・家庭教育スタッフが地域を訪問し、保護者と顔の見える関係づくりを図れた
- ・託児等の実践の場を通じて保護者との関係づくりにつながった

課題

- ・部局間連携において、時間調整や情報共有の難しさがあった
- ・子育てに行き詰っている家庭(保護者)に情報を届けることと同時に、その家庭の情報を手にすることが難しい。
- ・スタッフは各々仕事を持っており専任では動けず、訪問活動等限定される。また専門的な相談への対応が厳しい。

(9) 今後の方向性

○福祉と教育が連携し、各地域のひろば訪問を通し信頼関係を築き、家庭への訪問支援へつなげる。

○研修会や行事等での託児を通して、保護者との連携を図り、相談や訪問支援などを行う。

○既存の会議や研修会などを活かし、子どもの育ちや家庭教育に関する情報共有をすすめ、関係者の連携体制を構築していく。

○各地域のまちづくり協議会等に家庭教育推進及び人材確保や育成など働きかけていく。

8 成果

家庭教育の応援に向けた県全体の気運づくり

部局間の日常的な情報交換や各種会議へ相互参加、イベント啓発活動の協働など年間を通じて進めることができた

市町担当者会議等での情報提供や情報交換などを行い、家庭教育応援を進める働きかけができた

フォーラム開催を通し、三重県PTA連合会他、保育所・幼稚園・学校、企業やNPO団体など県全体の気運づくりにつながった。

市町と連携したネットワークづくり

モデル事業を通じて訪問支援を実施したことで保護者との関係づくりができた

地域資源を活かし様々な関係者と連携することで、地域のネットワークの構築につながった

既存の組織や各部局の取組を整理し活用していくことで、連携を深めることができた

9 課題

訪問支援につながるよう、日常的な悩みや不安を気軽に相談できる保護者との関係づくりが必要であり、その保護者を支援する人材の育成が求められる。

市町の課題や実態は様々であるが、どの市町も家庭教育の必要性を感じ、具体的な取組を模索しているため、実態に応じた情報提供が必要である。

保護者との関係づくりには、子育てに関心の高まる妊娠期にアプローチする必要がある。また、切れ目のない支援していくために保健・福祉・教育の関係者が情報を共有することが必要である。

10 今後の方向性

①顔の見える関係づくりの構築

訪問支援及び顔の見える関係づくりをすすめるとともに、保護者と関わる人材の育成とスキルアップを図る。

②県及び市町の連携の強化

県内で広く家庭教育応援が展開されるとともに、モデル事例等を通じて他市町での波及を図り、市町の実態に応じた取組をすすめる。

③切れ目のない家庭教育応援の体制

家庭が孤立しないよう予防的な取組をさらに推進していくため、地域の人材や組織等を活用し、保健・福祉・教育の切れ目のない連携体制づくりを進める。